

納貯の灯はふたたびともる



会長 三上 武壽



皆様、新年あけましておめでとうござい
ます。皆様におかれましては、ますますご健
勝のこととお慶び申し上げます。

所沢税務署管内納貯貯蓄組合連合会の会
報紙「むさしの」は、100号を区切りとして、
組織面と予算面の問題から約3年前に休刊
しました。このたび、101号を復刊できたこ
とは、会長としてこの上ない喜びであり、こ
れもひとえに、納貯再構築にあたって、指導
とサポートをいただきました国・県・市の皆
様、そしてご理解とご協力をいただきました
組合員の皆様、各市納貯貯蓄組合、各関連
団体及び賛助会員の皆様のおかげであり、
この紙面をお借りして深く感謝申し上げる
次第です。

さて、昨年は各市において納貯貯蓄組合
が設立され、会員数が正会員と賛助会員で
200名を超えるなど、所沢税務署管内納貯貯
蓄組合連合会にとって、大きな節目となる
年になりました。

当会は、全国の納貯貯蓄組合同様、単位会
である各組合の組合員の減少と高齢化によ
る組織の弱体化、財政基盤の脆弱さにより
存続が危ぶまれていました。以前から活動
いただいている役員の皆様（所沢市：田中満
治氏、古谷賢一氏、中島光次氏、柳内仁氏、
飯能市：清水文夫氏、池田まつ枝氏、大附貴
子氏、市川直是氏、狭山市：土金英夫氏、内
田静江氏、横田久代氏、入間市：齊藤正明氏
とともに、約3年前から納貯再構築のため

の努力をしてきましたが、なかなか実を結ぶ
ことができず、この先どうしようかというこ
とが続きました。このまま、納貯の活動を停
止するしかないと思ったこともありましたが、
「租税の納納内完納」に向けた事業や中学
生の「税についての作文」募集事業による租
税教育事業など、戦後の経済的混乱から経済
成長期まで、ボランティア精神という気高い
志と熱い情熱を持った諸先輩が続けてきた
こと、そして現在の会員もそのことを誇りに
思い、熱い志を持っていましたので、何とか
継続したいという思いでいました。その思い
が天に通じたのか、一昨年9月に転機が訪れ
ました。

一昨年9月の役員会で、所沢市の田中満治
氏が、これまでの納貯の地道な活動について
熱く語られました。そして、「会費制を導入し
ても、納貯を存続しよう。私の趣味は納貯
とゴルフだった。納貯は、国・県・市の財政
を支えるため、納納内完納を推進してきた。
そして、これからを担う中学生の生徒さんた
ちに税に関する作文を書いてもらい税の重
要性を学んでもらってきた。こんな素晴らし
い趣味はない」とおっしゃっていただき、役
員の皆様の納貯存続の意思がなお一層強固
になりました。

そして、所沢税務署中田義直前署長の強力
なご支援により、加速度的に組織再編の道が
開かれ、現署長の中村一雄署長の継続したご
支援により今日に至りました。また、当会理

事で所沢市前医師会長の柳内仁先生のお声が
けにより各市医師会や医療関係団体の会長の
皆様にご協力をいただきました。また、税理士
会所沢支部高柳清孝支部長のご尽力により、税
理士会の皆様の納貯への加入や役員への就任
などのご支援をいただきました。さらに、税務
連絡協議会の構成員である各関連団体の会長
の皆様のご支援もいただきました。昨年6月に
入間市納貯貯蓄組合（小林昌幸組合長）、10月
には飯能市納貯貯蓄組合（吉島一良組合長）、
所沢市納貯貯蓄組合（荒木章組合長）、そして
狭山市納貯貯蓄組合（金子俊哉組合長）が設立
され、「納貯の灯はふたたびともされ」ました。
皆様に心から感謝申し上げます。

であり、納貯の事業はまさに市民の皆様の納税意
識の高揚を図り、ひいては「私たち一人一人が行
政とともに歩む」といった意識を浸透させるため
のものだと考えます。今まで以上に納貯の存在意
義が求められているのではないのでしょうか。

納貯貯蓄組合の活動を通じて、国・埼玉県及び
各市、そして金融機関との連携・協調を図りなが
ら、「納税資金の計画的備蓄」による「租税の納
納内完納」推進と中学生の「税についての作文」
募集や朗読会など納税意識の高揚に取り組み、将
来にわたって我が国が経済成長を続け、社会全体
が真の豊かさを享受する社会を築けるよう、私た
ちは、民主主義社会に貢献する組合として事業を
推進していく所存です。

どうか今後とも皆様方のご支援をよろしくお
願い申し上げます。

平成28年12月暮れに三上会長がお
亡くなりになりました。三年前に病が
わかり、納貯貯蓄組合の会長として、闘
病しながら納貯再生に向けご尽力をい
ただきました。

三上会長のごあいさつを会報誌「むさ
しの」に掲載することについては、執行
部として迷いましたが、三上会長が「む
さしの」の復刊を強く希望していたこ
とから、そのまま掲載することにしま
した。三上会長のご冥福をお祈りする
とともに、そのご遺志を酌んで新生納
貯を引き継いでいく所存です。